

# ポールと膜がつなげるアート

## 「遊び心がつむぐ、地域と記憶」

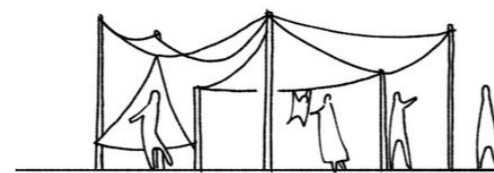
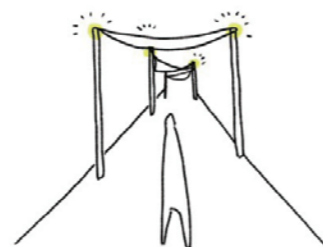
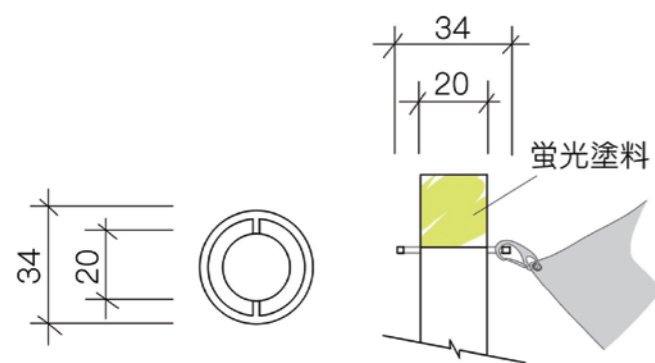
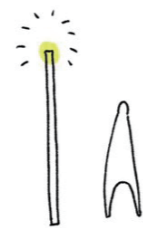
山から海へとつながるミュージアムロードにおいて、本提案は「楽しさ」をきっかけに人の流れと記憶をつなぐ装置をつくることを目指している。ポールと膜による可変的なアートは、これまで「見るだけ」だった風景に関わるきっかけを与え、立ち止まり、集い、滞在する場所へと変えていく。日常の通勤・通学からイベント時のにぎわいまで、ささやかな遊び心が積み重なり、この道での時間そのものが地域の記憶として紡がれていく。



## ポールと膜

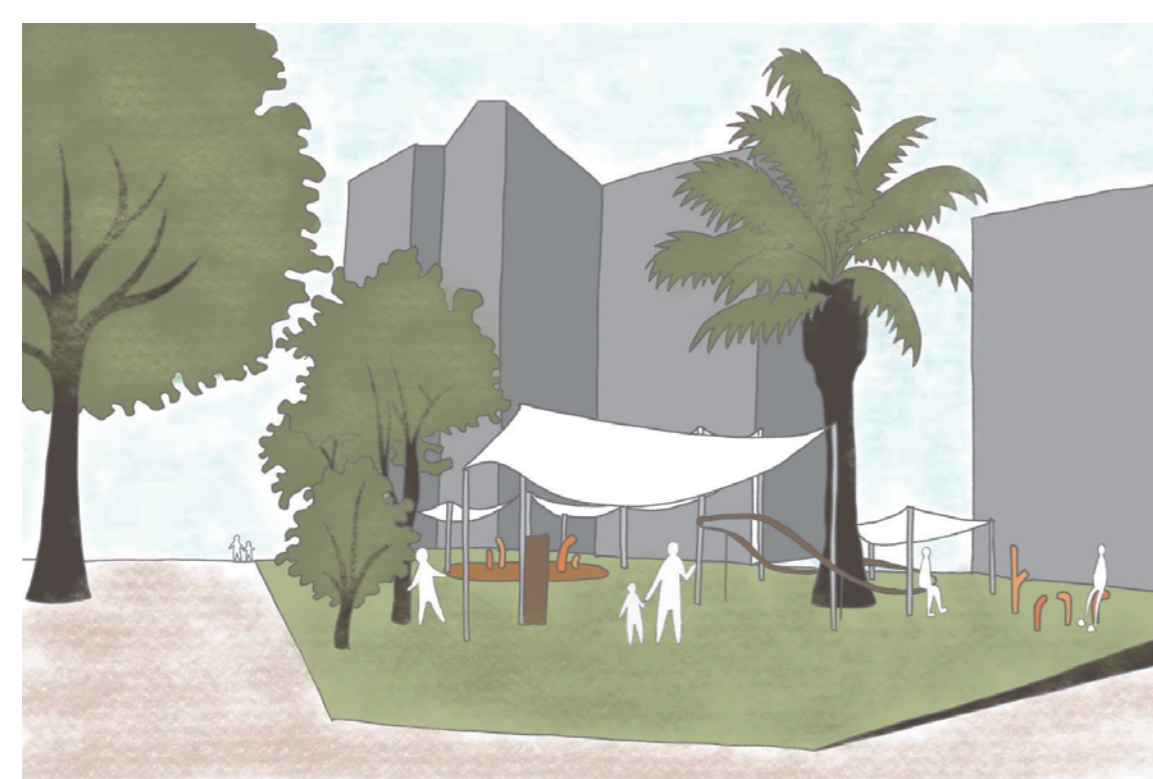
ミュージアムロード全体に共通する要素として、ポールと膜を用いたのは場に変化を与えるためである。ポールは常設でも街並みにリズムや視線の誘導を生み出し、膜は季節やイベントに応じてかけ替えることで、日常から非日常まで柔軟に対応できる。

ポールは下図の通り、膜を引っかけるための突起が付いている。さらに、先端部分には蓄光塗料が塗ってあり、夜になると発光し、光のアートとして、ミュージアムロードを彩る。また、地面に突起が埋め込まれており膜をひっかけることができる。使わないときは蓋をすることでフラットな地面を維持できる。



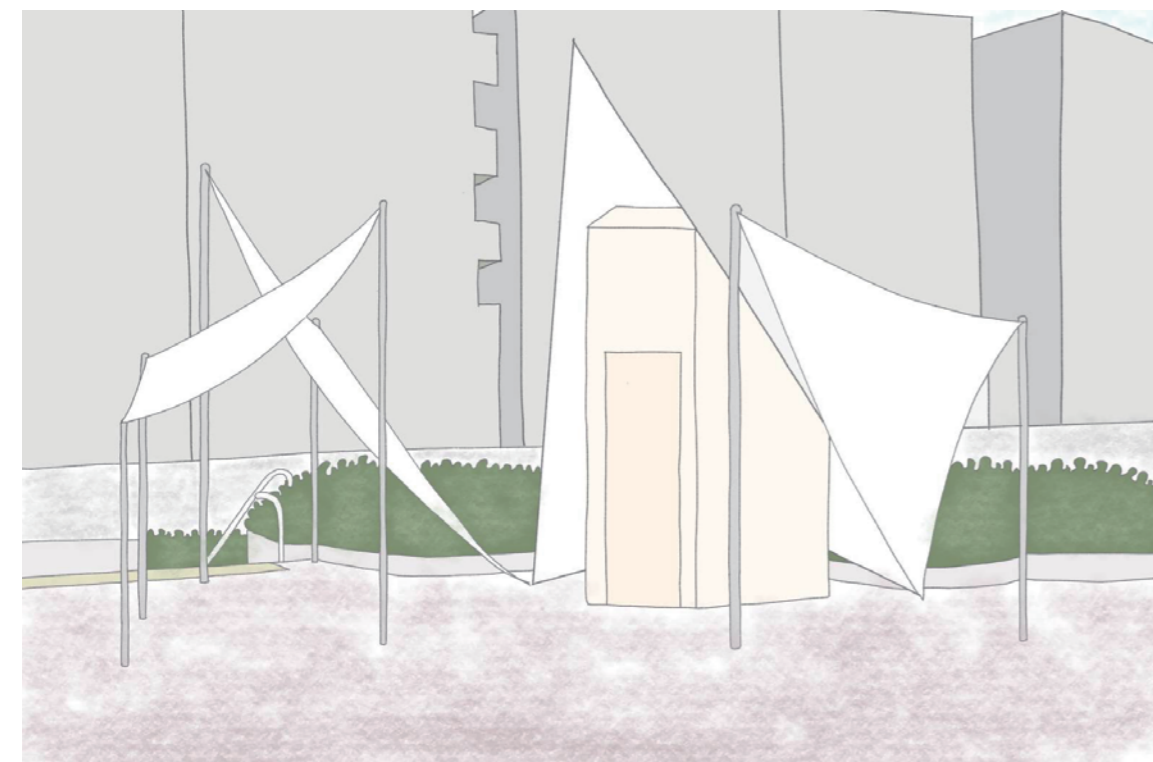
道端にポールを点在させ、ミュージアムロードに連続した彩りとリズムを与えた。ポールのみ状態でも街並みに軽やかな変化と楽しさを生み出し、さらに季節やイベントに応じて膜を掛け替えることで、表情を柔軟に変える景観演出を可能としている。





### 王子街園

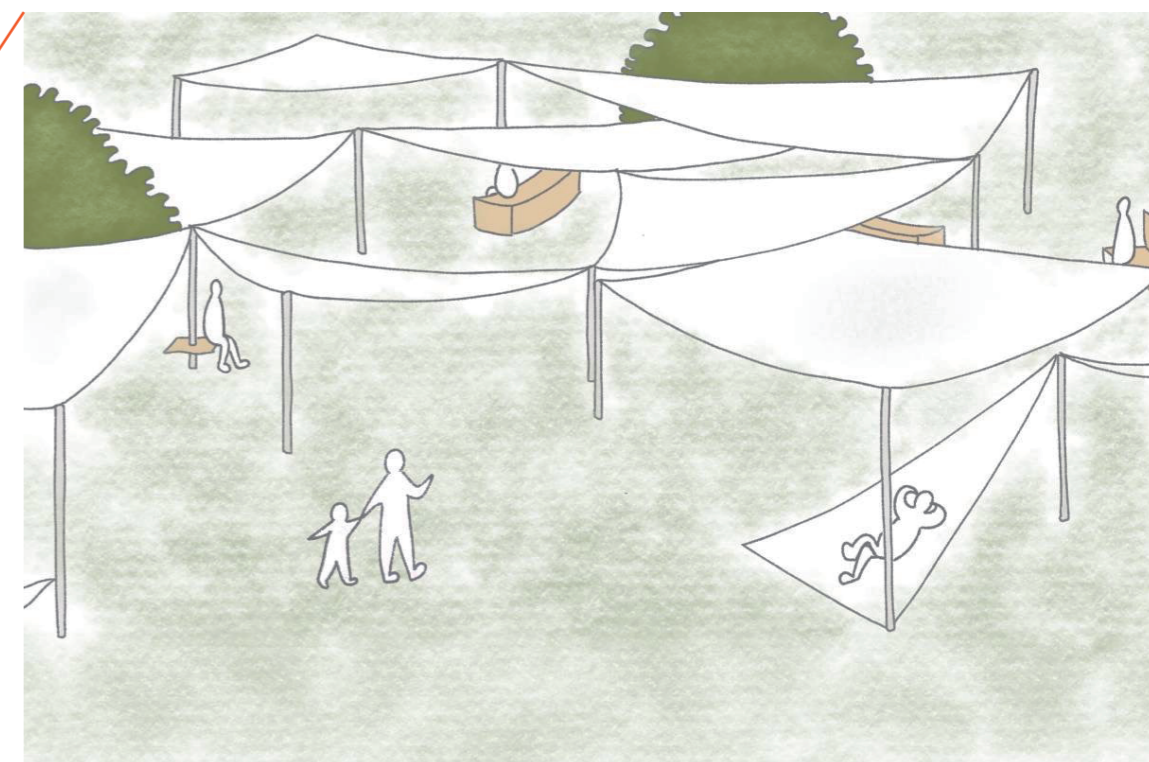
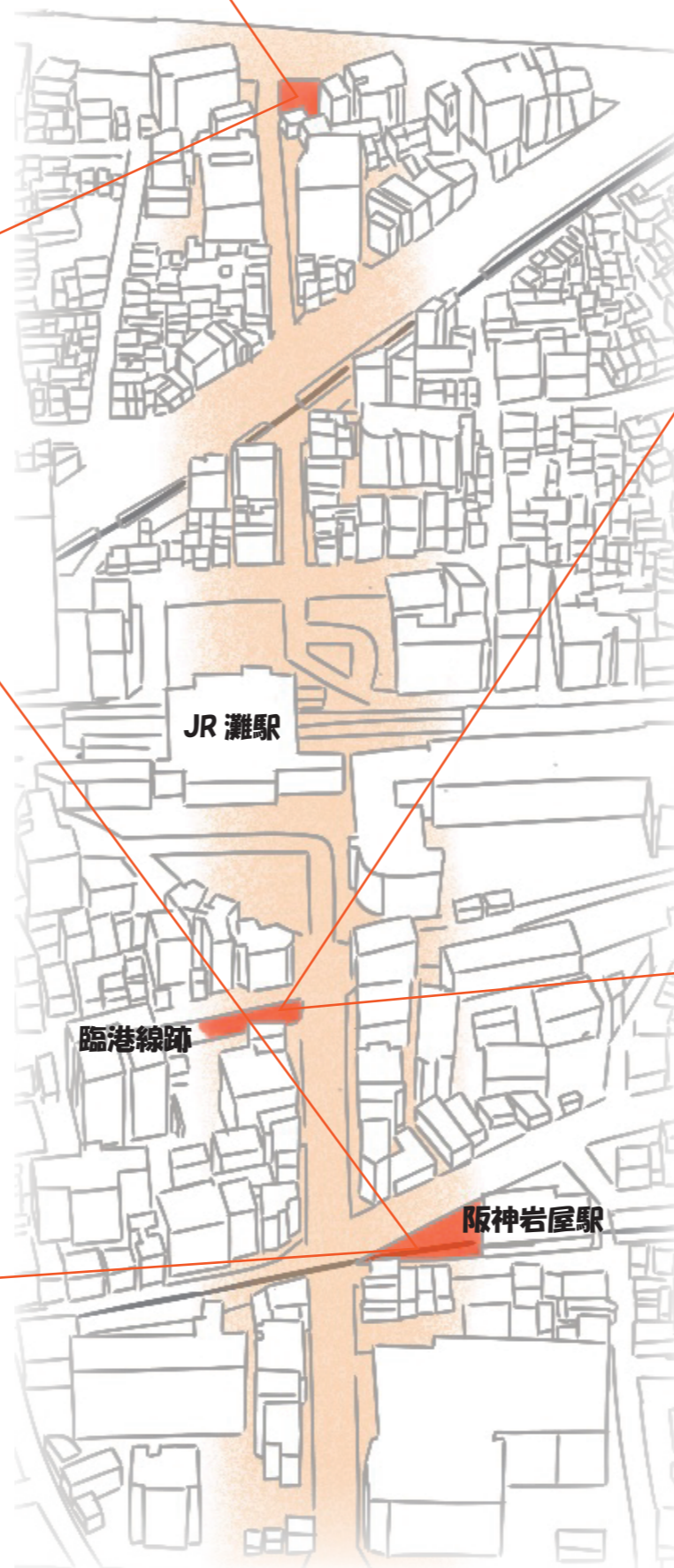
ミュージアムロードの入口として通過されてきたこの場所を、「立ち止まり、滞在する」場所として設定した。既存の木2本と敷地の高低差を活かし、インターロッキングの引き込みや飛び石によって、視覚的・心理的に入りやすい動線を確保している。来訪者が利用できるトイレは東側に配置し、場の使われ方に配慮した。



### 阪神岩屋駅前広場

人通りの多い岩屋駅前には、トイレと物置を集約して配置し、イベントや季節に応じてかけ替える膜は岩屋駅で管理する計画とした。駅へ向かう瞬間、そして駅を出た瞬間に通勤や通学という日常の時間が少しでも楽しく感じられるよう、心が弾む空間を目指している。

### 神戸市立王子動物園



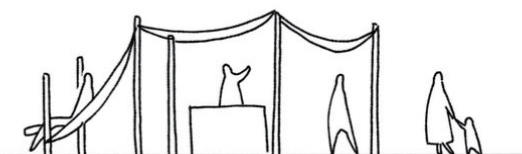
### 臨港線跡地

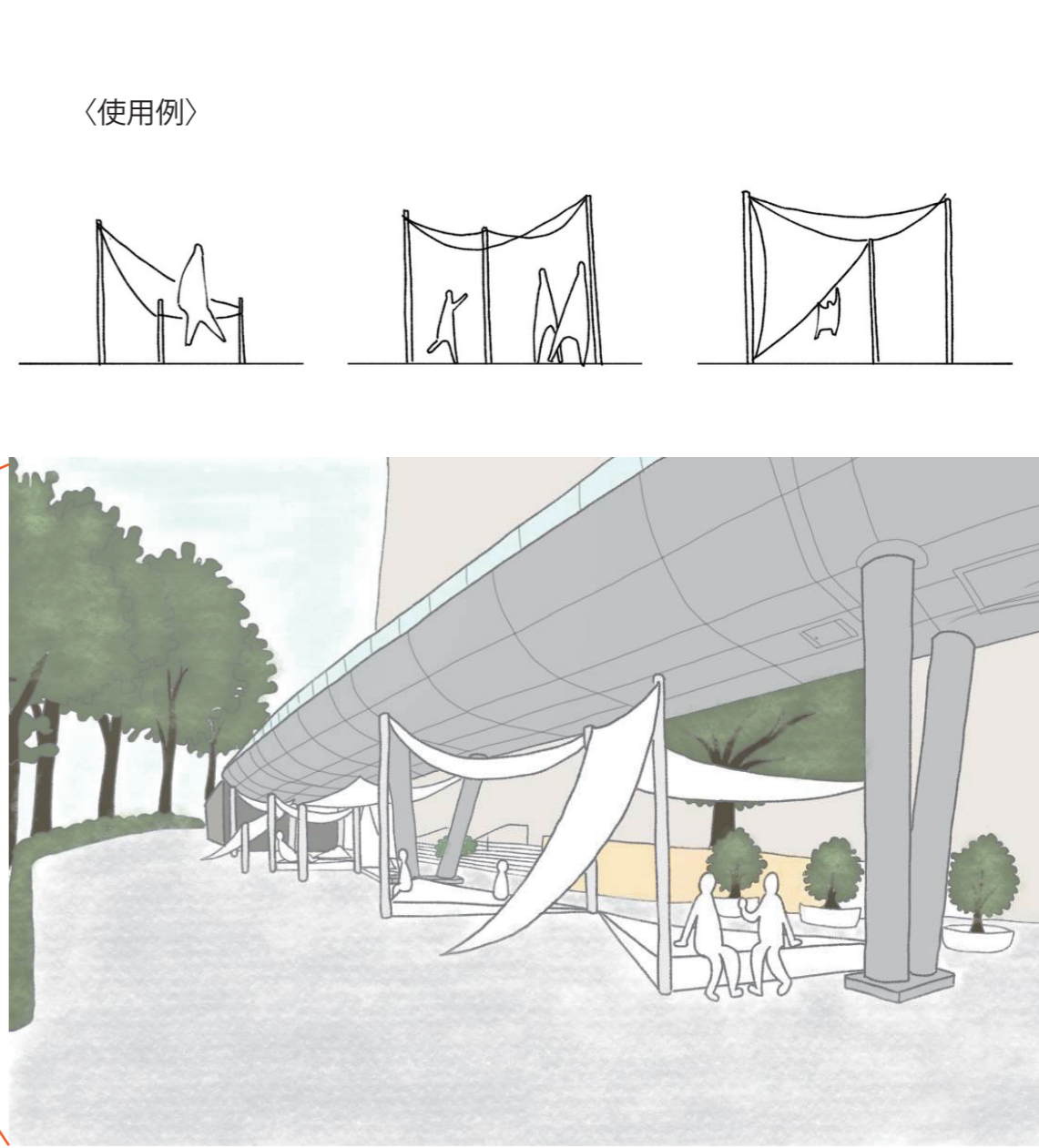
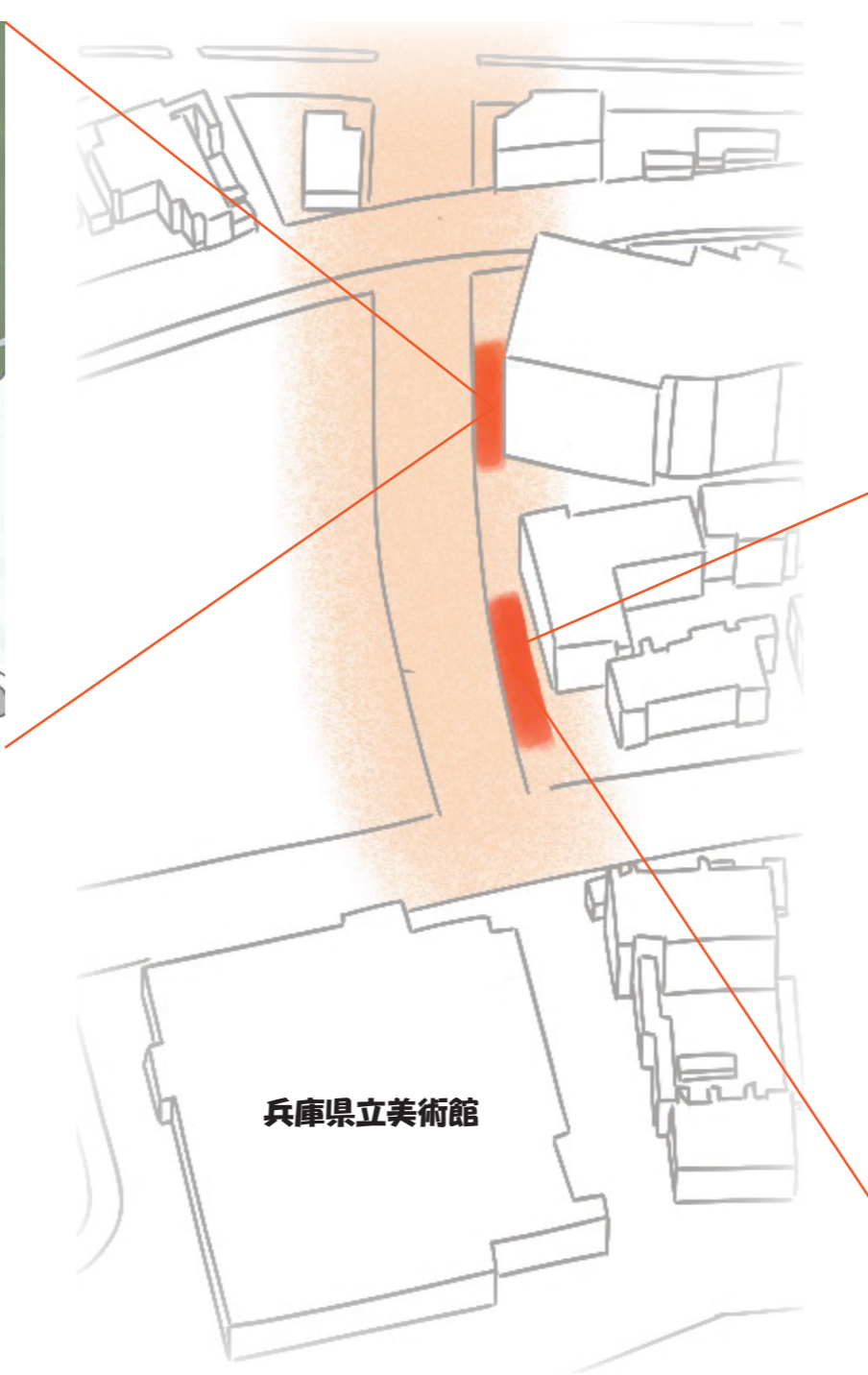
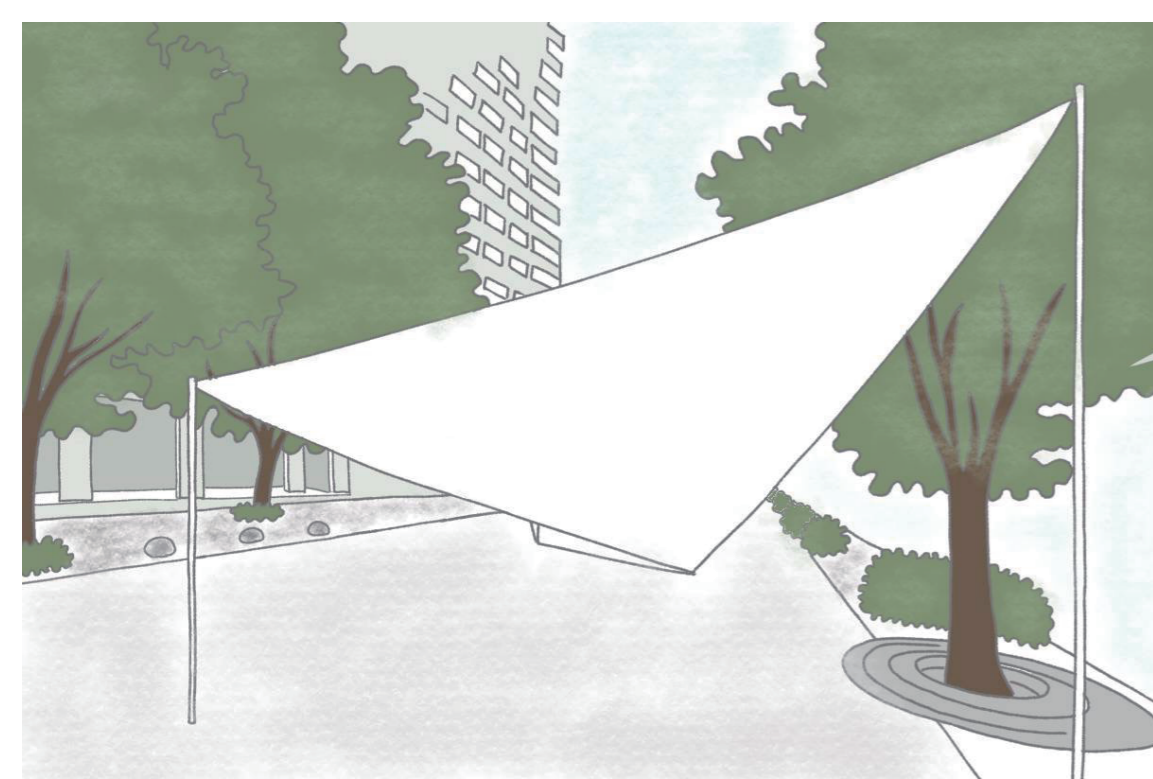
ミュージアムロードの中間に位置する臨港線跡地を、動きと滞在が共存する場所として設定した。手前側には、上り下りを行き交う人々が気軽に立ち寄り、休息できる「集う・滞在する」空間を設け、奥側には子どもがのびのびと遊べる公園的な場所としている。膜が空間をやわらかく包み込み、日常的に人々が集う心地よさを生み出すとともに、マルシェなどのイベントとも連携できる、多用途な場所を目指した。

#### 〈普段〉



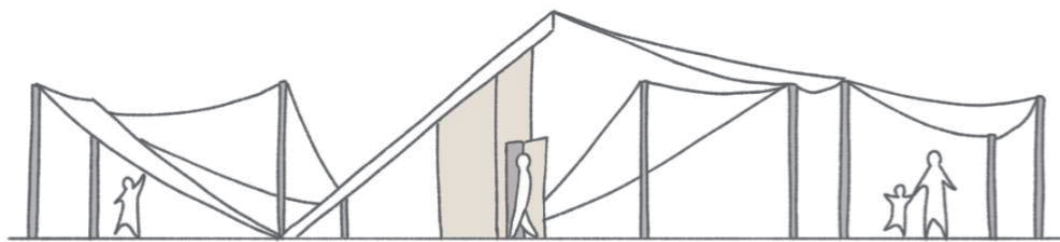
#### 〈イベント時〉





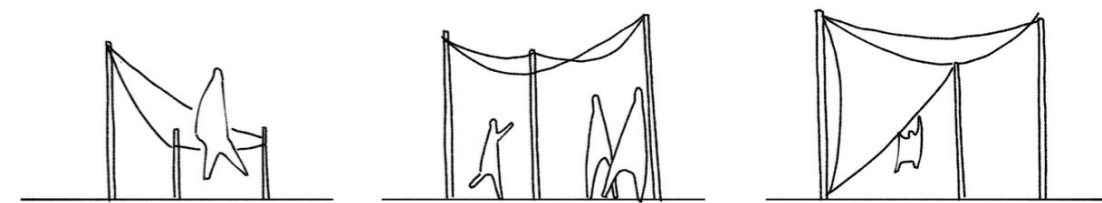
### さやえんどう怪獣付近

ミュージアムロードの終盤に位置する、道幅約8mの広い歩道は、開放的でありながらも視線の変化に乏しい空間となっている。そこで、交差点付近からさやえんどう怪獣へと続く道りを膜で彩り、歩く体験にリズムと期待感を与えた。周辺に気軽に利用できるトイレが少ないことからトイレを配置し、美術館まで「あと少し」の地点で、ひと息つける立ち寄りの場として機能させている。



兵庫県立美術館

〈使用例〉



### 歩道橋下

歩道橋下に生じていた未利用空間に着目し、その下に人が滞在できるベンチを設えた。歩道橋の下にポールを立てて膜構造を形成し、海を想起させる爽やかな雰囲気を演出している。ベンチには緩やかな傾斜を与え、座るだけでなく寝転がることもできるなど、来訪者の行為を限定しない多様な居場所となることを意図した。

### 季節やイベントに応じてかけ替える膜

膜は季節やイベントに応じてかけ替えることができる可変的な要素である。春は淡い桜の色で新生活の始まりを感じさせ、夏は白や水色の膜が海を連想させる。秋は温かみのある色がミュージアムロードに彩りを与え、冬は静かな色で季節にふさわしい落ち着きをもたらす。イベント時には、象徴的な柄や色を用いることでミュージアムロード一体が特別な舞台へと切り替わる。膜の色の変化は訪れるたびに異なる風景と出会いを生み出し、日常の中に小さな記憶を積み重ねていく。



春

夏

秋

冬